

# ステージラボいわきセッション 募集要領

ステージラボは、地域の芸術文化に携わる公共ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムです。少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップなど双方向の研修で、地域における創造的な表現活動の環境づくりに取り組む人材の育成と、相互交流の促進を目指して実施します。

## ■ 開催概要

日 程：2020年2月18日（火）～2月21日（金）[4日間]

※公立ホール・劇場マネージャーコースは、2月18日（火）～2月20日（木）[3日間]

会 場：いわき芸術文化交流館アリオス（福島県いわき市平字三崎1-6）

開講コース：①ホール入門コース、②自主事業（音楽）コース、③公立ホール・劇場マネージャーコース

定 員：各20名程度

参 加 費：研修参加は無料 ※交通、宿泊、滞在中の食事はご自身で手配、費用負担いただきます。

開 催 体 制：主催／（一財）地域創造、共催／いわき市、いわき芸術文化交流館アリオス、後援／福島県

### ①ホール入門コース

コーディネーター：龍 亜希（北九州芸術劇場プロデューサー）

皆さんは演劇やダンス、音楽など芸術が持つ力をどのように感じていますか。そして、その力をそれぞれの地域でどんな風に活用していきたいと思えますか。昨今、社会の様々な分野でこの芸術が持つ力を活用する場面が増えていきます。その拠点とならなければならない公共ホール・劇場は何を考えればよいのか、そして何のために存在するのか、ワークショップを織り交ぜながら考えていきたいと思えます。

【対象となる職員の目安】

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む※）および地域の芸術文化に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において業務経験年数1年半未満（開館準備のための組織は年数不問）の方。

### ②自主事業（音楽）コース

コーディネーター：田村 緑（ピアニスト）

我々を取り巻く社会が刻一刻と変化する今、「芸術文化を媒体に町を生き返らせることができるか。」が今回のテーマです。4日間を通し、集う仲間と共に、音楽芸術に触れながら、そこに宿る潜在力を引き出し、音楽から得た力によって、ゼロから1を生み出す想像力・発想力を呼び起こします。そして、町の存続に欠かせない芸術文化としての観点から、地域と芸術の融合、音楽事業の新たな可能性を考えてみませんか。

【対象となる職員の目安】

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む※）および地域の芸術文化に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

### ③公立ホール・劇場マネージャーコース

コーディネーター：篠田信子（富良野メセナ協会代表）

文化を取り巻く環境が変化している中「地域資源」を生かすということがよく言われます。地域の公共ホール・劇場は地域が抱える課題を認識し、地域の環境や特性、人材を生かす方法を考察することが必要です。且つ事業の企画制作を通して創造性を生み、住民と芸術家とのパートナーシップを構築することが不可欠です。「地域資源」を生かした様々な事業例を参考に「地域資源を生かすとは」を考察し、これからの施設運営の在り方について考えてゆきます。

【対象となる職員の目安】

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む※）および地域の芸術文化に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において管理職程度の職責を持つ方。

## ■ 申込方法

当財団ウェブサイト <http://www.jafra.or.jp> → 「様式箱」 → 「ステージラボ」 から、①参加申込書、②アンケート回答票 をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、電子メール（宛先：[kensyu@jafra.or.jp](mailto:kensyu@jafra.or.jp)）でお申し込みください。

※民間事業者の場合は副申書が別途必要

※申込書の受信連絡は行いません。確認が必要な場合は、お問合わせいただくか、「開封確認」を設定してください。

**申込締切：11月25日（月）必着**

### 【参加者の決定】

アンケート内容、応募状況などを考慮のうえ（アンケート重視）、参加コースと参加の可否の調整を行い、2019年12月下旬頃に、申込者あて文書によりご連絡致します。

お問合せ：（一財）地域創造 芸術環境部 三田・青井・勝田 TEL03-5573-4066 E-mail [kensyu@jafra.or.jp](mailto:kensyu@jafra.or.jp)

## コーディネーターからのメッセージ・プロフィール

### ①ホール入門コース

コーディネーター：龍 亜希（北九州芸術劇場プロデューサー）

2003年（公財）北九州市芸術文化振興財団・北九州芸術劇場 舞台事業課事業係において招聘公演を中心に制作を行う。この間、多くの演劇・ダンスの劇団やカンパニーと創作を含めた公演制作を行い、2009年より事業係チーフ、2012年より舞台事業課チーフを務める。2015年より北九州芸術劇場プロデューサーとして、自主事業全体の実施内容や年間ラインアップの調整等を行う。



◎重松美佐

いま社会が大きく変化するなか、公共ホール・劇場の存在と役割も変化してきました。舞台と客席を成立させることがすべての時代から、演劇、ダンス、音楽という芸術の持つ力を社会が持つ課題に提供するようになりました。

ホール・劇場にはアートプログラムとパブリックプログラムが存在します。地域の状況や劇場の目的とミッションによって画一的ではなく、それぞれに重点やバランスが違ふと思います。今回は北九州芸術劇場で実施している事業を紹介するとともに、その中から障害者の皆さんを中心としたダンスカンパニー「レインボードロップス」の活動と、地元の高齢者の方々の記憶をモチーフに演劇作品を立ち上げる事業「Re:北九州の記憶」を中心に進めたいと思います。地域のホールで働く皆さんは日々目の前の業務を進めることで精一杯かと思いますが、そんな日々から少し離れて、実際にその力を感じ、それをどう活かせるかなどについて一緒に考えてみましょう。

### ②自主事業（音楽）コース

コーディネーター：田村 緑（ピアニスト）

躍動感に満ち情感あふれる演奏スタイルと、在英経験を活かした独創的プログラムが特徴。全国各地で演奏活動を行う。普及の分野では先駆者的存在。地域と共にある新しい企画の開発、地域に貢献できる演奏家の育成など活動は多岐に渡る。英国ギルドホール音楽院ピアノ科首席卒業。ロンドン・シティ大学大学院修士課程修了。2016-2018 いわき芸術文化交流館アソシエイト・アーティスト。（一財）地域創造おんかつ支援登録アーティスト。



◎田子和司

我々を取り巻く社会が刻一刻と変化する今、「芸術文化を媒体に町を生き返らせることができるか。」が今回のテーマです。その町の存続に芸術文化が欠かせないものになったら、その地域にある公共ホールの存在は肯定され続けるものとなります。

芸術には幾重もの層があります。神聖な領域に昇華する芸術。普遍性・大衆性を獲得した芸術。今や社会の課題に対応できる芸術まで。一方、音楽事業も多層化しています。多くの人に来てもらいたい鑑賞事業。稼働率を高くしたい貸館事業。質の問われる普及事業に今後増えそうな創造事業。

今回、集う仲間と共に、音楽芸術に触れながら、そこに宿る潜在力を引き出し、音楽から得た力によって、ゼロから1を生み出す想像力・発想力を呼び起こし、町の存続に欠かせない芸術文化の観点から、地域と芸術の融合、音楽事業の新たな可能性を考えてみませんか。我々の考える音楽事業によって、人が変わり、町が変わり、社会が変わる。海の幸・山の幸が溢れ、東北で一番温暖と言われるいわきでお待ちしています。

### ③公立ホール・劇場マネージャーコース

コーディネーター：篠田信子（富良野メセナ協会代表）

1948年北海道生まれ。夫の転勤で富良野に来て、演劇創作活動をしている人達と出会う。1996年、ふらの演劇工房の活動を開始し事務局長、理事長を歴任。2000年、公設劇場「富良野演劇工場」を受託し工場長（館長）をしてオープンにこぎつける。2006年、NPO理事を辞任し独自でプロデュース、コーディネーターを始める（「C-プランニングフラノ」主宰）。2007年、地元企業の資金応援を得て「フラノデリス・メセナ事業」を発足、2009年度より「富良野メセナ協会」に名称変更した。2011年、倉本聰氏が富良野市に寄贈した喫茶店「北時計」を、文化発信基地となるべく受託し名称を「喫茶・ギャラリーあかなら」に変更し運営している。現在、富良野メセナ協会代表。喫茶・ギャラリーあかなら代表。2020東京オリンピックパラリンピック文化教育委員。



公共ホールや劇場は設置自治体の文化政策が背景にあって建設されているものです。文化を生かして地域をどのようにしてゆくの、地域住民の生活をどのように変えてゆくの、それらを具現化する現場として公共ホール・劇場があると考えています。

近年は価値観が変化し、期待される役割が多様化されています。文化芸術の価値を高めることから経済や社会への波及性に対する価値観が重視され、地域の特色や地域の資源をいかした文化事業を行うことが求められています。本マネージャーコースでは、地域資源に着目し、自治体の文化政策とその政策を実施している施設の文化事業を紹介しつつ、心豊かな生活と活力ある社会を創出する施設運営を行うための課題を共有し、今あるべき公共ホール・劇場等のあり方について皆さんと一緒に考えたいと思います。